

第203号

令和7年
8月31日発行
秋彼岸号

西光



靈閑だより

仏教は数学・・・？

No 仏教, No Life

傘

門前掲示板 一言法話

7月 気にせんととき

8月 いちいち反応しない

9月 善はなして悔いなし

お知らせ

秋彼岸会のご案内



浄土宗西山禅林寺派
雲龍山 西光寺 住職 大塚靈閑

〒671-0101 姫路市大塩町229番地

079-254-0351(Tel)

079-254-4142(Fax)

otsuka@saikouji-himeji.com

<https://saikouji-himeji.com/>



HP



LINE



Instagram

仏教は数学・・・？

数学なんて意味があるのか！？

先日、小学6年の息子の友達が遊びに来た際に、「6年で習うことで今使ってることなんてあるん？」と言うので、「さすがに6年のことはいるで」と言いました。そんな私も理科や数学が得意ではなかったので、昔は「こんな植物の分類なんて、数学の証明問題なんて何の意味があるんだ」とブツブツ言っていた記憶があります。誰もが通る道かもしれないかもしれません。しかし今では数学が一番大事だと思えるのです。

数学は問題解決能力の訓練

数学を学ぶ意味は論理的思考能力を養うことと言われます。と言われてもピンときません。そんな時テレビ『初耳学』の林修先生と実業家森岡毅氏の対談で、なるほどと思ったことがありました。

数学というのは問題解決能力を鍛えています。数学を勉強してこなかった人は、定数を動かそうとする。それは与えられたものでどうしようもない。そんな定数を変数に変えようとして、人生の時間と労力を浪費してしまう。一方変数は努力などでどうにでもなる。

限られた試験時間の中で、多くの情報の中から、必要なものを取捨選択し、最短で最適な道筋を見つけ、集中していく。こういった数学的なアプローチは、お釈迦さまも説かれています。

仏教のアプローチも実は・・・

過ぎ去れるを追うことなかれ。いまだ来たらざるを念うことなかれ。過去、そはすでに捨てられたり。未来、そはいまだ到らざるなり。されば、ただ現在するところのものを、そのところにおいてよく観察すべし。揺らぐことなく、動ずることなく、そを見きわめ、そを实践すべし。ただ今日まさに作すべきことを熱心になせ。(一夜賢者の偈)

過去という定数は動きません。しかし現在は変数です。なんとでもなります。そして未来は現在の取り組み、生き方という原因があって、その結果の「未来」が待っています。結果には必ず原因があ

るという因果の法則は、まさに仏教の教えそのものです。

自分と他人の問題もそうです。他人は定数です。自分の変数です。他人の行動や気持ちまでコントロールできません。どうも私たちの悩みの原因の大半は、こうした動かしようもないものに対する執着であるようです。

この世において、どんな人にも成しとげられない事が5つある。1つには、老いていく身でありながら、老いないということ。2つには、病む身でありながら、病まないということ。3つには、死すべき身でありながら、死なないということ。4つには、減るべき身でありながら、減びないということ。5つには、尽きるべき身でありながら、尽きないということである。世の常の人々は、この避け難いことに突き当たり、いたずらに苦しみ悩むのであるが、仏の教えを受けた人は、避け難いことを避け難いと知るから、このような愚かな悩みを抱くことはない。(増支部経典)

言われなくても分かってるわと言ってしまいそうですが、この5つのことが人生における最大の悩ましき定数なわけです。

釈迦の教えは厳しく非情・・・？

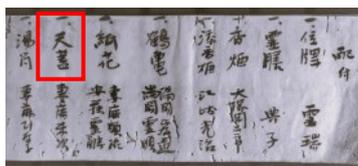
上記のようにお釈迦さまの肉声が伝えられているという最初期の仏典の内容は実に自己鍛錬的です。阿弥陀仏やお地藏さん、観音さんなど拜む、祈る対象としての仏さまが出てきたのは後世のことです。(それでは今の仏教はお釈迦さまの教えではないかというところではありませんが、これはまた別の機会に譲るとします。)お釈迦さまの考えに絶対者、救済者的な存在はありませんでした。「なんとかしてください、いや、なんとでもなりません」という厳しいものでした。あくまで自らの救済者は自分自身であるといえます。

学生の頃にこんなことを得心して、「よし勉強頑張るぞ」なんて思えるわけがありません。仏教に体で理解するという「体解」という言葉がありますが、やはり様々な困難にぶち当たりながら、「そうだったのか」という気づきに出会えるのです。そんな気づきに出会えたあなたは、お釈迦さまの言うところの「賢者」であるといえます。

No 仏教, No Life

傘

当寺の本堂の導師座の頭上に飾られている人天蓋。322年前、元禄16年の寄附。171年前、嘉永7年の修復。



昭和8年に亡くなった当寺の寺族の葬儀記録より、野辺送りの際の持ち物と配役



晋山式の稚児行列の際の朱傘

今年のお盆のお参りでは、日傘を使いました。年々長くなる夏の暑さ対策として、傘は欠かせないアイテムになりそうです。

さて、お釈迦さまの国インドの王宮おうきゆうの生活において、傘さんがい（傘蓋）は欠かせないアイテムでした。インドの映画を見ておられますと、王様が歩出く際には、お付きの方が傘を横からさしかけ、室内では、左右から侍女達が大きな葉のうちわで王様を扇いでいるシーンが出てきます。暑いインドにおいて、少しでも涼をとりたいというでしょう。インドでは傘は専ら強い日差しを避けるための道具でした。傘の起源は大変古く、古代エジプトやギリ

シャの時代からあったようです。やはりインド同様専ら日除ひよけであり、雨具としての使用は近代になってからのことです。

この貴人にさしかけた傘が仏教にも取り入れられました。仏さまの頭上に装飾を凝らした傘さんがい 〓 仏天蓋ぶつてんがい がかけられ、僧侶、導師の座の上にも傘さんがい 〓 人天蓋にんてんがい がかけられました。

また大きな法要において、お稚児さんと一緒に行列を組んで練り歩く際には、導師は朱傘しゆがせ をかざしていただきます。かつて葬儀の際の野辺送りでも、天蓋や朱傘は仏となつていかれる故人にかざす持ち物として大切なものでした。

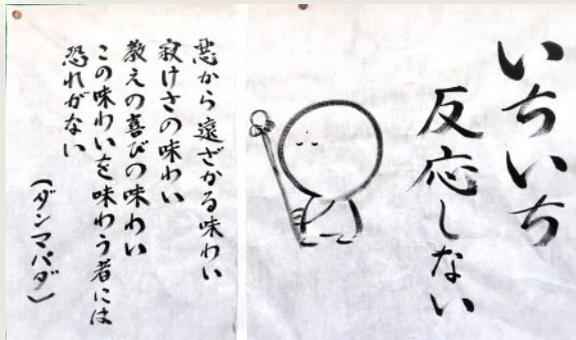
門前掲示板 一言法話

7月



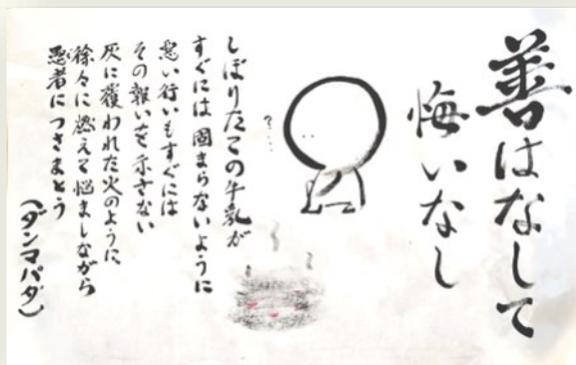
お釈迦さまでも数々の非難を受けました。次月のことばとも通ずるところですが、いちいちが反応しては身が持ちません。お釈迦さまは、自分を罵る者に「今、あなたは私のことをひどく罵ったが、私はその罵りを少しも受け取らなかった。だから、あなたが言った言葉はすべて、あなた自身が受け取ることになる」とさりりと対応されました。罵り合うことなく。わだかまりを残すことなく。穏やかな心を保つ。

8月



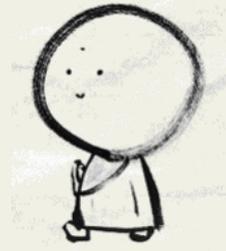
「ほんまにこの人嫌いやわ〜」「なんかムカツくな〜」などなど、我々は大量の情報に足を突っ込み過ぎているようです。テレビやインターネット上の”知らない”人にまで勝手におせっかいを焼きにいき、ブツブツ、グチグチ言っております。どうも他人のことまで自分の問題にしてしまっているようです。その疲れ、関わり過ぎかもしれません。

9月



「善とは何か？後味の良いことだ。悪とは何か？後味の悪いことだ」これはアメリカの小説家ヘミングウェイの言葉。お釈迦さまも「悪いことをするよりは、何もしないほうがよい。悪いことをすれば、後に悔いる。善いことはするほうがよい。なして、後に悔いがない」といいます。悪は引きずるんですね。行いも発言も後味良く、爽やかに！

お知らせ

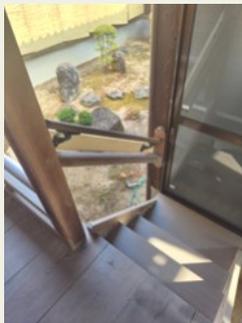


手すり増やしました！

どうしてもお寺には段差が多くあり、お参りの際になにかとご不便をおかけしておりました。数年前に本堂へ上がる階段に手すりは設置いたしましたが、より皆様に安心してお参りしていただけるよう、この度その他のお寺内のすべての段差に手すりをつけました。



本堂地下の納骨堂
への階段の最初の2
段のステップ



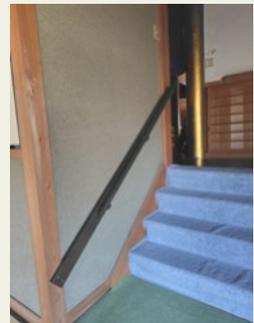
本堂北側の縁から
トイレへの階段



庫裡の玄関



庫裡と本堂を
つなぐ段差



本堂裏の位牌壇
への階段

ご逝去の報

宮本丁	小林幸子さん	92歳	令和7年7月23日寂
姫路	井神忠男さん	98歳	令和7年8月12日寂
中ノ丁	熊野春美さん	78歳	令和7年8月上旬寂
中ノ丁	熊野尚子さん	50歳	令和7年8月上旬寂
中ノ丁	熊野晶子さん	48歳	令和7年8月上旬寂
東ノ丁	小林昭昌さん	81歳	令和7年8月20日寂
東ノ丁	黒川美枝さん	77歳	令和7年8月23日寂

編集後記

九月もまだまだ夏は続くのでしょうか。お彼岸も夏の行事になりつつあります。

そんな中サギソウがきれいに咲きました。仏教では花といえば蓮ですが、このサギソウも是非推薦したいと思っています。



今後の予定

じゅうやえ
十夜会 11月30日(日) 午後1時～



夜明け前の本堂

秋彼岸会

九月二十三日

(火・秋分の日)

午後一時～おつとめ

午後二時～お説教

お説教の前後に塔婆回向(ご先祖の供養)を
いたします。回向料は一霊三〇〇円です。

説教師

滋賀県大津市

正興寺住職

北林大尚師